

平成30年度 福井県立科学技術高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 研修	生徒の活動を主体とした年間学習指導計画を作成する。	教員は98%授業計画通りに進められたとしている。授業の進度は「(ちょうど、おおむね)良かった」と答えた生徒は92%だが、「速く感じた」と答えた生徒が4%(H29 4%)いた。	「学習と進度に関するアンケート」の結果を念頭に置きながら、生徒の理解度がより深まる授業を目指す。そのため、クラス別の教科科目の理解度を分析する。
	小テストの実施、レポート・課題などを通して生徒の知識の定着を図り、学習到達度の自己理解を深めさせる。	レポート・課題の提出は、9割の生徒ができていた。一方で、授業内容が「(あまり、まったく)理解できなかった」と答えた生徒は昨年(8%)より増加して12%である。	基礎的な知識の定着に留まらず、もう一步進んだ内容に取り組むため、資格試験との連携をとるよう工夫する。
2 生徒指導	毎朝遅刻指導を行い、基本的な生活習慣を身につけさせる。	遅刻回数が学期に3回以下の生徒は92%であり、ほとんどの生徒が規則正しい生活を送っている。しかし、意識が低い生徒も若干いる。	毎朝の生徒玄関前での指導等の効果が上がっている。遅刻の多い生徒に対して保護者と連携を密にし、継続して指導する。
	頭髪服装の指導を通して、校則遵守の必要性を理解させる。	生徒は98%の高い数値で、目標をクリアできている。保護者の意識も97%と高く、校則遵守にご協力いただいていることに感謝したい。	規範意識がやや低い生徒に対しては日頃から声をかけ、自分を律する態度を身につけるよう粘り強く指導していく。
	部活動の充実を図る。	部活動の加入率は、1年生91%、2年生85%、3年生59%であった。そのうちの90%の生徒は、積極的に参加している。	部活動の活性化をいっそう図るため、全校集会などで部活動を継続させる働きかけを行い、加入率の維持と向上を図る。
3 進路指導	進路一斉模試、進路一斉指導等を実施し、基礎学力の向上と進路意識の高揚を図る。	進路に対する意識を高める項目では、3年生が97%に対し、2年生は82%、1年生は66%と昨年同様に学年によって大きな差が出た。1年生からの進路指導を充実させる必要がある。	1年生のうちから、県内企業の現状や社会情勢について進路一斉指導等で伝え、進路意識の高揚を図る。1年生・2年生への一斉指導(3年生からのアドバイスや模擬面接)についても効果があるので、今後も継続して実施していく。
	進学や就職のガイダンス、面接、作文指導等を実施し、選考試験に合格できる実力を身につけさせる。	95%の保護者に「子供の進路に満足している」または「おおむね満足している」という評価をいただき十分な成果を得た。また、93%の生徒が、身なりや言葉遣いの向上を実感している。	求人数増加の影響もあり、またコーディネーターの先生の協力もいただき、今年度はさらに内定率がアップした。次年度も面接練習を充実させていきたい。不合格の理由を分析し、生徒が自信をもって入社試験に臨めるように指導する。
4 保健管理	健康診断と事後処理を計画的に実施し、必要に応じて早期治療を働きかける。	健康管理が不十分だと回答した生徒と保護者は、ともに10%であった。毎朝の健康観察を継続的に実施し、自分の課題を見つけて、実行するにはどうしたらよいか具体的に指導していきたい。	自分の健康課題を意識させ、保護者にも協力を得て、自らの健康管理に取り組ませる。
	学習環境に関心を持ち、環境の美化・整備を進める。	生徒、保護者、教職員とも目標を上回る評価を得た。また清掃用具の破損も少ないが工業高校として修理し大切にに使わせたい。	校舎内外での清掃活動や、清潔で安全な学習環境を形成する体制が出来ている。今後も生徒が自らの学習環境に関心を持ち、普段から物品を大切に使う態度を身に付けさせる。
5 庶務部	保護者と学校との連携事業(フロッピー花壇作り、学校祭バザー販売(カレーライス・焼鳥等)、強歩大会湯茶サービスなど)を実施する。	P T Aとの連携事業では、保護者が参加していることや中身についての理解度は97%と高かった。また84%の教員が、保護者との連絡を密にした教育活動に取り組んでいる。	P T Aの方々熱心に活動されている姿を見ることにより、生徒の心に感謝の念が芽生えるよう、また積極的に多くの方々に参加していただけるよう引き続き働きかけてゆく。
	広報活動の一環として、P T A広報誌「水仙」の充実を図る。	P T A活動に対し、保護者91%、教職員98%と関心が高く、活動内容が広報により全体に広く行き届いている。今後、さらに充実した広報誌を発行し、保護者、教職員を通して地域にしっかりと広報できることを継続していきたい。	保護者に、P T A活動に対して、さらなる理解を深めていただけるよう、充実した広報誌を目指す。
6 図書指導	広報活動を通して、読書に親しみを持たせ、読書に興味を持たせる。	生徒の評価は56%で昨年同様に若干下降して、まだ目標値には達していない。また、20%の保護者が、読書の必要性をあまり感じていないと回答している。	スマホ、ゲーム等のデジタル機器による若者の読書離れが危惧されている。生徒の読書への興味・関心の持たせ方の工夫の継続が必要。保護者への広報活動も拡充していく。
7 ものづくり 教育	検定や資格試験に積極的に取り組む。	生徒、保護者、教職員すべてが検定試験に積極的に取り組み、目標を達成できた。特に保護者の関心が96%と高い。教職員(91%)、生徒(90%)である。	今後も検定や資格試験に積極的に取り組み、学習意欲を喚起させていきたい。また合格率及び合格者数を上げていく。
	学科での実習で、基本的知識・技術を身につけさせ、課題研究では、校内での発表会において、成果を披露させる。	生徒、保護者、教職員すべてが目標を達成できた。特に保護者の関心(97%)が高いことがわかった。実習見学会や課題研究発表会を積極的に利用することが大切である。	実習では基本的知識・技術を、課題研究ではさらに高度な専門的な知識・技術を身に付けさせ、ものづくりに興味関心を持たせていく。
	ものづくりコンテストやロボットコンテスト・マイコンカーラリー・デザイン系コンクール等に積極的に参加させる。	保護者は、新聞、テレビ報道等で本校の取り組みをよく理解していただいている。今年度は、保護者、教職員は目標を達成できたが、生徒は目標を達成していない。さらに今後も、生徒の取り組みの意欲をもっと引き出すように努めていきたい。	日頃からものづくり活動に関心を向けさせ、きめ細かく、また結果が伴うように指導を行っていく。また、参加生徒が全体の2割程度のため、少しでも多くの生徒が参加できるよう、取り組み方を検討したい。